

第22回 (令和3年度)

いばらき 児童生徒地図作品展の報告

— 地図作品づくりで深まる主体的・対話的学び —

あなたの町や県のすがた、自分で調べて考えたこと
地図で伝えよう



※これらの作品は、第22回の
最優秀作品及び優秀作品です。

デザイン協力: 小橋 雄毅

第22回 いばらき児童生徒地図作品展

2021年11月30日(火)～12月12日(日)

【展示会場】茨城大学図書館 展示室
(茨城県水戸市文京2-1-1)

【平日】9:00～17:00 【土・日曜日】11:00～17:00

※ 表彰式は中止となりました。

<https://www.gsl.go.jp/ibaraki/buten.html>

主催: いばらき児童生徒地図研究会
(茨城大学・筑波大学の学際系、(公社)日本測量協会関東支部、
(公社)茨城県測量・建設コンサルタント協会、国土地理院関東地方測量部等)

共催: 茨城大学教育学部
後援: 茨城県教育委員会、茨城県教育研究会社会科教育研究部、茨城地理学会、
(一財)日本地図センター、NHK水戸放送局、(株)茨城新聞社 (順不同)

【会場に際して】
新型コロナウイルス感染症対策に伴い、引き続き
学外者の学内施設利用の制限が行われています。
学外の方は展示室以外をご利用できません。
なお、入場の際は、正門受付(守衛所)で氏名の記
入等をお願いしています。あらかじめご了承ください。
入場は無料です。

問い合わせ先
いばらき児童生徒地図研究会
事務局(国土地理院関東地方測量部)
TEL. 03-5213-2057
茨城大学教育学部社会科教育教室
村山 朝子 TEL. 029-228-8223

令和4(2022)年6月

いばらき児童生徒地図研究会

はじめに

「いばらき児童生徒地図作品展」は、茨城県内の小学生、中学生を対象として、身のまわりの環境や地域の姿を様々な視点から調べ、考察したことを地図作品として表現することにより、環境や地図、地域に対する関心を深めてもらうことを目的として、毎年開催されています。平成12年度に県南地区で始まった本作品展は、第12回（平成23年度）以降、募集範囲を県全域に広げ、今日に至っています。これまでご支援、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

第22回（令和3年度）の作品募集には、県内の小学校、中学校計17校から個人・グループ合わせて合計300名による192点の応募がありました。作品展を主催する「いばらき児童生徒地図研究会」が厳正な審査を行い、最優秀作品1点、優秀作品6点、佳作13点に展示作品27点を加えた計47点の入選作品を選定しました。

作品展は、共催の茨城大学の図書館展示室において11月30日から12月12日を会期として開催しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、表彰式の開催は取り止めとしました。そこで、その代替として、入賞作品の紹介動画等を作成し、事務局である国土地理院関東地方測量部ホームページ※に公開しました。

この冊子は、ホームページに掲載した内容をもとにしています。日常生活や学校での活動に様々な制限がかかる厳しい状況が続く中であっても、主体的に取り組んだ児童生徒によるすばらしい地図作品をもっと大勢の皆様にも見てもらいたい、地図作品づくりに対する理解が広まり、一人でも多くの児童生徒に楽しく地図作品づくりに取り組んでももらいたい、という願いのもと作成しました。地図作品展で展示した入選作品を紹介するとともに、後半には、地図作品づくりの簡単な手引きや地図の入手方法なども掲載しました。

先生方には、本冊子をご活用いただき、児童生徒の地図作品づくりへのご支援・ご指導を賜うことができれば幸いです。また、本冊子の内容や地図作品展へのご意見・ご要望等もぜひお寄せいただければありがたく存じます。

引き続き「いばらき児童生徒地図作品展」に対するご支援、ご協力をお願い申し上げます。

村山 朝子

いばらき児童生徒地図研究会会長

※ (<https://www.gsi.go.jp/kanto/ibaten.html>)

作品展の応募要領も例年このウェブサイトで発信しています。

目 次

第 22 回 (令和 3 年度) いばらき児童生徒地図作品展報告	1
入選作品の紹介	
最優秀作品	8
優秀作品	10
佳作作品	13
展示作品	17
地図作品づくりで深まる主体的・対話的な学び	
地図作品づくりと学習との関わり	24
地図作品づくりの手引き	27
地理院地図の活用	31
教育現場に役立つ「地理教育の工具箱」	34
災害リスクを調べる「ハザードマップポータルサイト」の活用	35

第 22 回（令和 3 年度）いばらき児童生徒地図作品展報告

1. いばらき児童生徒地図作品展の目的

いばらき児童生徒地図作品展は、茨城県の小・中学生が身のまわりの環境や地域の姿を自ら観察、調査し、それらを地図として表現することにより、環境や地図、さらには地域に対する関心を深めることを目的としています。

2. 第 22 回作品展の主催・後援団体

主催：いばらき児童生徒地図研究会

茨城大学・筑波大学の学識者，茨城県教育庁，茨城県教育研究会社会科教育研究部，（公社）日本測量協会関東支部，（公社）茨城県測量・建設コンサルタント協会，国土地理院関東地方測量部の会員で構成されています。

共催：茨城大学教育学部

後援：茨城県教育委員会，茨城県教育研究会社会科教育研究部，

茨城地理学会，NHK 水戸放送局，（株）茨城新聞社，（一財）日本地図センター

3. 作品募集方法

令和 3 年 6 月 9 日国土地理院関東地方測量部のホームページで作品募集の案内を開始するとともに、学校情報ネットワークを通じて、募集案内のメールを公立小中学校関係者向けに配信していただきました。また、県内教育事務所、各市町村教育委員会にご協力をお願いし、県内の全ての小・中学校に対して作品募集を案内するチラシを郵送しました。作品応募期間は令和 3 年 9 月 1 日から 30 日としました。

4. 審査

応募作品数：192 作品（小学生：14 作品，中学生：178 作品）

参加児童生徒：300 名（小学生：34 名，中学生：266 名）

令和 3 年 10 月 30 日に国土地理院においていばらき児童生徒地図研究会審査員による審査を行い、最優秀賞 1 点，優秀賞 6 点及び佳作 13 点の入賞作品，並びに展示作品 27 点を加えた合計 47 点の入選作品を選定しました。入選者の学校に結果を連絡し，入賞者には作品紹介文の提出を依頼しました。

5. 作品展の開催

令和 3 年 11 月 30 日から 12 月 12 日の間，茨城大学図書館 1 階展示室において 47 点の入選作品の展示を行いました。新型コロナウイルス感染症対策に配慮し，学外からの来場者

には大学入構の際、受付で氏名等の記入をお願いしました。開催期間中の来場者数は 879 名であり、茨城大学の学生・教職員をはじめ、作品の作成者である児童生徒や保護者、ご支援くださいました先生方にもご来場いただきました。なお、作品展の設営・撤収には、茨城大学教育学部の学生の協力を得ました。

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、表彰式は取り止めとしました。その代替として、作品展や表彰式の内容を盛り込んだ動画を作成し、最優秀賞、優秀賞および佳作の入賞作品を紹介することにしました。これらは開催報告の記事として、令和4年2月9日に国土地理院関東地方測量部ホームページに公開しました。

なお、最優秀賞作品1点と優秀賞作品6点は、全国児童生徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土地理院）主催「第25回全国児童生徒地図優秀作品展」に出展しました。このうち最優秀賞作品は、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞に次ぐ審査員特別賞を受賞しました。

あなたの町や県のすがた、自分で調べて考えたこと

地図で伝えよう

作品募集

デザイン協力：小橋 健輔

第22回 いはらき児童生徒地図作品展

作品応募期間 2021年9月1日(水)～9月30日(木) ※必着

【作品展】2021年11月30日(火)～12月12日(日) 茨城大学図書館1階展示室
 【表彰式】2021年12月4日(土) 茨城大学図書館ライブラリーホール

▼詳しい応募方法は事務局(国土地理院関東地方測量部)ホームページをご覧ください。
<https://www.gsi.go.jp/kanto/batons.html>

お問い合わせ先
 いはらき児童生徒地図研究会
 事務局(国土地理院関東地方測量部)
 TEL:029-2219-2207
 茨城大学教育研究社会科教育研究部
 担当 電子 TEL:029-229-8223

主催 いはらき児童生徒地図研究会
 (茨城大学・筑波大学の学協会、(公)日本測量協会関東支部、
 (公)茨城県測量・建設コンサルタント協会、国土地理院関東地方測量部等)
 共催 茨城大学教育研究部
 後援 茨城県教育委員会、茨城県教育研究社会科教育研究部、茨城地理学会、(一財)日本地図センター、
 NHK水戸放送局、(株)茨城新聞社(限不同)

第22回 いはらき児童生徒地図作品展

はじめに
 いはらき児童生徒地図研究会では、茨城県の小・中学生が身のまわりの環境や地域の姿を自ら観察・調査し、それらを地図に表現することにより、環境や地図さらには地域に対する関心・理解を深めることをねらいとし、県内の児童生徒が作成した地図作品を募集します。

開催概要
 以下のとおり、地図作品を募集します。応募された作品の中から、審査のうえ入賞作品を決定するとともに、作品展を開催して展示します。また、特に優秀な入賞作品を来年1月開催予定の「第25回全国児童生徒地図優秀作品展(主催:全国児童生徒地図作品展連絡協議会)」に出展します。

◆応募要項
 □テーマ 身の回りの環境や地域の姿を調査・観察・考えたことを地図として表現したもの
 □応募資格 (茨城県内の小・中学校の児童生徒(グループでの共同作成可))
 □作品の規格 ①紙地図 横縦紙サイズ78cm×109cm(縦横自由) ②地形模型 縦50cm×横60cm×高さ20cm以内
 □応募期間 :2021年9月1日(水)～9月30日(木) (必着)
 □応募方法
 ・作品名・学校名・学年・学級・氏名を記入したネーム票(様式1)を作品裏面・裏面に貼ってください。
 ・学校ごとに取まとめた応募、個人での応募のいずれも可能です。ただし、個人で応募する場合も、学校に事前報告してください。
 ・いずれの場合も、応募者リスト(様式2)を作成し、電子メールで下記期間に提出してください。
 なお、詳しくは国土地理院関東地方測量部ホームページを御覧ください。下記のQRコードから入れます。

電子メールの宛先	gsi@27event@gsi.go.jp
	(いはらき児童生徒地図研究会事務局)
電子メールの件名	○学校いはらき児童生徒地図作品応募について

◆下のいずれかの方法で、作品とプリントアウトした応募者リスト(様式2)をセットして提出してください。
 【郵送の場合】〒305-0811 つくば市北郷1番 国土地理院総務部広報広聴室(地図と測量の科学館)あて
 【持参の場合】中城崎測量の科学館
 受付時間:休館日等あらかじめ確認するよう、お願いします。
 ※地図と測量の科学館は、新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止のため、8月20日(金)から臨時休館しておりますが、9月12日(日)まで臨時休館を延長することになりました。ご留意ください。
 TEL:029-964-1572 FAX:029-964-3729
 ②(公社)茨城県測量・建設コンサルタント協会(水戸市谷津町1-23水戸西武通センター内)
 受付時間:休館日等あらかじめ確認するよう、お願いします。
 TEL:029-254-9200 FAX:029-254-9180

◆審査
 ・いはらき児童生徒地図研究会の審査委員が厳正な審査を行い、最優秀、優秀及び佳作からなる入賞作品並びに展示作品を加えた入賞作品を決定します。
 ・結果は、国土地理院関東地方測量部ホームページに公表します。

◆作品展及び表彰式 ※いずれも予定
 ・2021年11月30日(火)～12月12日(日)の期間、茨城大学図書館1階展示室(茨城県水戸市文京2-1-1)において作品展を開催し、50点程の入賞作品を展示します。入場料は無料です。
 ・2021年12月4日(土)に、茨城大学図書館ライブラリーホールにおいて表彰式を行ないます。

◆個人情報の取り扱い
 個人情報の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律及び関連法等を遵守の上、個人情報を取り扱います。

◆作品の返却
 ・応募された作品は、学校ごとに返却します。
 ・個人応募の作品も学校経由で返却しますので、あらかじめご了承ください。

◆その他
 ・応募された作品は、いはらき児童生徒地図研究会の活動のため、活用することがあります。
 ・入賞作品の応募者である児童生徒の氏名、学校名等の提供された個人情報は、ホームページ、チラシ、ポスター、記事、作品集、広報誌等に掲載し、公開・配布することがあります。
 ・作品の枠では、作成した児童生徒等の自宅の場所や位置が特定できるような表現は避けてください。
 ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、作品展及び表彰式は中止となる場合があります。その場合は、国土地理院関東地方測量部ホームページでお知らせします。

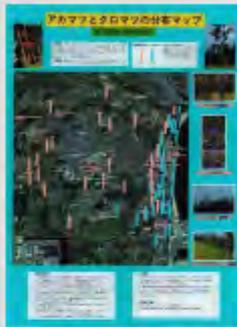
国土地理院関東地方測量部のホームページから様式1-2をダウンロードできます。
<https://www.gsi.go.jp/kanto/batons.html>

スマートフォンなどでQRコードを読み取ってダウンロードしてください。
 応募用の入賞作品をご覧ください。
<https://www.gsi.go.jp/kanto/batons/1062.html>

第22回 いはらき児童生徒地図作品展 作品募集チラシ

あなたの町や県のすがた、自分で調べて考えたこと

地図で伝えよう



※これらの作品は、第22回の最優秀作品及び優秀作品です。



デザイン協力:小橋 雄毅

第22回

いばらき児童生徒地図作品展

2021年11月30日(火)～12月12日(日)

【展示会場】茨城大学図書館 展示室
(茨城県水戸市文京2-1-1)

【平日】9:00～17:00 【土・日曜日】11:00～17:00

【来場の際して】

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、引き続き学外者の学内施設利用の制限が行われています。学外の方は展示室以外をご利用できません。

なお、入構の際は、正門受付(守衛所)で氏名の記入等をお願いしています。あらかじめご了承ください。入場は無料です。

<http://www.gslgo.jp/kanto/ibaten.html>

主催:いばらき児童生徒地図研究会

(茨城大学・筑波大学の学際者、(公社)日本測量協会関東支部、(公社)茨城県測量・建設コンサルタント協会、国土地理院関東地方測量部等)

共催:茨城大学教育学部

後援:茨城県教育委員会、茨城県教育研究会社会科教育研究部、茨城地理学会、(一財)日本地図センター、NHK水戸放送局、(株)茨城新聞社 (順不同)



問い合わせ先

いばらき児童生徒地図研究会
事務局(国土地理院関東地方測量部)
TEL:03-5213-2057
茨城大学教育学部社会科教育教室
村山 朝子 TEL:029-228-8223

<審査会>



<作品展>



いばらき児童生徒地図作品展

関東地方測量部

- 関東地方測量部の概要
- 公共測量の手法
- 測量成果の閲覧・利用
- 管内の主な観測施設
- 地理空間情報の整備
- イベント・セミナー
 - ▶ 測量の日関連イベント
 - ▶ いばらき児童生徒地図作品展
 - ▶ 地図と測量の豆知識
- 地図連携
- 地理に関する情報
- 関東地方測量部の主な出来事
- 自然災害伝承碑関連
 - ▶ 震災から50年、「三六災害」を伝える自然災害伝承碑を新たに22基公開
 - ▶ 震災を伝える自然災害伝承碑を初めて公開
 - ▶ 久慈川・那珂川流域の自然災害伝承碑8基を公開

いばらき児童生徒地図作品展

「第22回いばらき児童生徒地図作品展」を開催

いばらき児童生徒地図研究会※(会長 村山朝子茨城大学教育学部教授、事務局 国土地理院関東地方測量部)は、「第22回いばらき児童生徒地図作品展」を開催しました。

※(いばらき児童生徒地図研究会は茨城大学・筑波大学の学識者、茨城県教育庁、茨城県教育研究会社会科教育研究部、(公社)日本測量協会関東支部、(公社)茨城県測量・建設コンサルタント協会、国土地理院関東地方測量部の会員で構成されています。

概要

○本作品展の目的は、茨城県内の小・中学生を対象として、身のまわりの環境や地域の姿を様々な視点から調べ、地図にまとめることで環境や地域、地図に対する関心を深めてもらうことです。

○今回は192点の作品応募があり、最優秀賞(1点)、優秀賞(6点)及び佳作(13点)の入賞作品を選定しました。

○令和3(2021)年11月30日(火)～12月12日(日)の間、茨城大学図書館1階展示室(茨城県水戸市文京2-1-1)において展示会を開催し、20点の入賞作品に27点の展示作品を加えた47点の入選作品を展示しました。

○動画を作成するにあたっては、茨城大学教育学部社会科教育教室の協力がありました。

入選作品リスト

[入選作品リスト\[PDF_3.3MB\]](#)

作品展の動画

- [1]はじめに(会長挨拶) [YouTube]
- [2]作品展会場の様子 [YouTube]
- [3]最優秀賞・優秀賞の紹介 [YouTube]
- [4]佳作の紹介 [YouTube]
- [5]終わりに(来場者の声) [YouTube]

添付資料

[第22回いばらき児童生徒地図作品展ポスター \[PDF_1.4MB\]](#)

「第22回いばらき児童生徒地図作品展」開催に関するホームページ

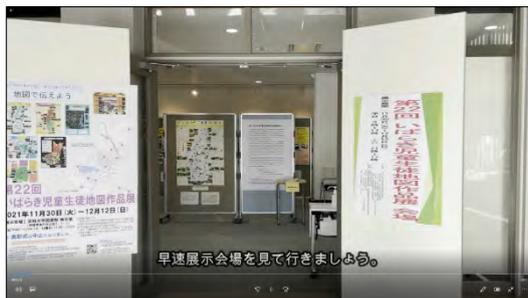
<https://www.gsi.go.jp/kanto/ibaten.html>

<作品展の動画>

[1]はじめに（会長挨拶）



[2]作品展会場の様子



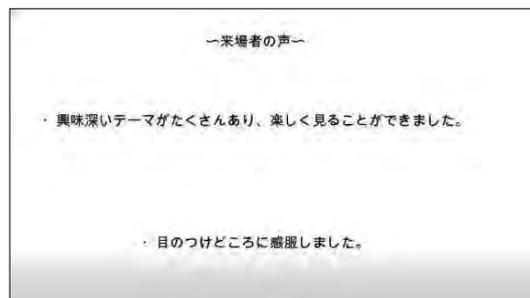
[3]最秀賞・優秀賞の紹介



[4]佳作の紹介



[5]終りに（来場者の声）



入選作品の紹介

地図作品展に展示された入選作品 47 点を紹介します。

最優秀賞 1 点

優秀賞 6 点

佳作 13 点

展示作品 27 点

なお、優秀賞までの 7 作品は、全国児童生徒地図作品展協議会（事務局：国土地理院）主催の「第 25 回全国児童生徒地図優秀作品展」（開催場所：国土地理院地図と測量の科学館，会期：令和 4 年 1 月 4 日～ 2 月 20 日）に出展されました

国土地理院のホームページでは、過去の回も含め、全国展の展示作品もご覧いただけます。

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/SAKUHIN/25sakuhintentop2022.html>



最優秀賞

第25回全国児童生徒地図優秀作品展審査員特別賞 受賞

野生動物からの被害 大調査

常陸太田市立 久米小学校
 5年 齊藤 葉菜、降矢 ことみ、
 6年 川村 文美、菊池 陽葵、窪谷 來春、
 黒羽 柚妃、城 菜々美、茅根 彩純、
 平塚 世奈

(講評)

学区に分布する田畑の野生動物による被害を見聞きしたことをきっかけに、様々な方法で、その実態と対策についてグループで調査した大作です。丹念なフィールドワークの成果であるとともに、地図表現として完成度の高いものです。さらに、被害の背景に農業人口の減少や耕作放棄地の増加などがあることに気づき、被害の問題を機に、地域が抱える課題を身近な問題としてとらえることができている点も高く評価できます。

(作成者による紹介)

学校や祖父母宅の畑の被害や通学路の柵やネットが増えている状況が気になり、学区内の野生動物の被害について調べました。在校生にアンケートをとり、地域の方にインタビューしながら徒歩で調査し、市役所の資料も加えてまとめました。その結果、いろいろな種類の動物からの大きな被害があること、対策も始まっていることがわかりました。また、耕作放棄地の増加や農業人口の減少等の問題に気づくことができました。

地図作品づくりをふり返って

私たちは地図づくりをふり返ってみて、まず3年生の夏休みに作った地図作品を思い出しました。「わたしたちの町の安全マップ」を作り、久米小学区にはどこにどのような避難所があるのか学ぶことができました。また、災害があったときに役立てられるかなと思いました。

次に4年の「こめ工房のお野菜マップ」を作りました。どこで何の野菜を育てているのかが分かりました。

そして5年生の「久米小周辺の50年～今昔マップを使って～」を作り、久米周辺の今と昔の道路や家、お店の数は昔と比べて、増えていることが分かりました。また、久米小があったところは元々山だったこと、私たちの住んでいるところは畑だったということが分かりました。50年前のことを知っている人がなかなか見つけられず、大変でした。でもがんばったおかげでいばらき児童生徒地図作品展では、最優秀賞をもらうことができました。

最後は、今年作った「野生動物の被害大調査」です。夏休み中に学区内の野生動物の被害状況についてメンバーと調べました。富永さんという農家の方に話を聞くと、「野生動物が山から来る」と話していました。その対策にはネットをかけていたり、柵を立てている家が多いという事実が分かりました。いろいろな方に話を聞いた結果、イノシシからの被害が多い、その対策に柵、ネットが使われていました。これらのことを地図にまとめ、色使いを工夫したり、手作りの動物のシールをはったりして見やすく地図にしました。大変だったけれど、先生やメンバーの協力を得て、全国児童生徒地図優秀作品展では審査員特別賞をもらうことができました。

これらの経験をもとに地図作りの大切さを学ぶことができ、中学校の学習に生かしていきたいと思います。

(6年 川村 文美、黒羽 柚妃 平塚 世奈)



那珂市のこだわり 生産者やさいマップ

那珂市立 菅谷西小学校
3年 篠原 豪太

(作成者による紹介)

僕は、お父さんが経営する飲食店で食べるサラダバーが大好きです。那珂市のおいしい野菜を使っていると知り、どんな生産者さんがつくっているのか調べてみたいと思いました。調べていくうちに、他にもおいしい野菜を作っている生産者さんがたくさんいると分かりました。おいしい野菜ができるまでの苦労や工夫と、どこで買ったり食べたりできるのかをたくさんの人に知ってほしいと思って地図を作りました。

(講評)

自分の住んでいる市に住む、こだわりをもって野菜を生産している農家の調査を通して、生産者の願いや工夫を地図上にまとめた作品です。身近な事柄から課題を見だし、追究を進めているという着眼点が素晴らしいです。また、いくつかの飲食店にもアンケートをとり生の声を調査しています。「つくる人」と「使う人」の両面から、「食べる人」への思いや願いを調査してまとめている本作品からは、食を通じた人々の「つながり」が見えてきます。身近なところから課題を見つけ、自分の足と耳で事実を集め、そこで出会った地域の事実への感動が伝わってくる素晴らしい作品です。



学校がなくなる

常陸太田市立 久米小学校

6年 池田 緑希、海老根 未来、栗原 壮彩、後藤 鈴奈、
鈴木 双葉、茅根 美里、成井 快斗、葺澤 紗羽、
塙 莉緒

(作成者による紹介)

私たちは来年3月に卒業ですが、同時に久米小学校も閉校し、金砂郷の小学校が1つに統合されます。そこで、金砂郷内の小学校の児童数や学校数、歴史を調べて地図にまとめてみたいと思いました。その結果、児童数と学校数は大きく減っていますが人口はそれほど減っていないこと、廃校後は再利用されていること、学校がなくなると地域に影響がでることがわかりました。歴史については、今後も興味をもって深めていきたいです。

(講評)

学校が統合のため今年度でなくなることから、市内の小学校の統廃合の歴史を追い、聞き取りや現地調査をするなどして作成した力作です。加えて、地域の歴史や見どころについても調べ、地域に対する誇りや思いを新たにしています。

その結果、住民への聞き取りから、学校の統廃合がそこに通う児童・生徒だけの問題ではなく、地域のコミュニティの損失にもつながることに気づくことになりました。学校の統廃合はやむをえないのかもしれませんが、地域の活性化を考えた際には、本当にこの方向で良いのかと、いろいろ考えさせられます。



(講評)

市の人口推移の調査を通して、地域の課題を明らかにし、未来に向けて地域の魅力を再発見しようとした意欲作です。調査項目を細かく設定し、7地区ごとの人口推移を調べ、現地にも足を運び、表・写真と合わせて丁寧にまとめています。また市長へのインタビューを通して現状や課題を整理し、地域の自然を生かした魅力の発信、経済活性化のための大型ショッピングモールの建設等の提案をしています。「人口減少対策に目を向け、仲間と共に北茨城市を盛り上げていきたい」という地域に対する強い思いが、社会参画につながる点からも評価できる地図作品です。

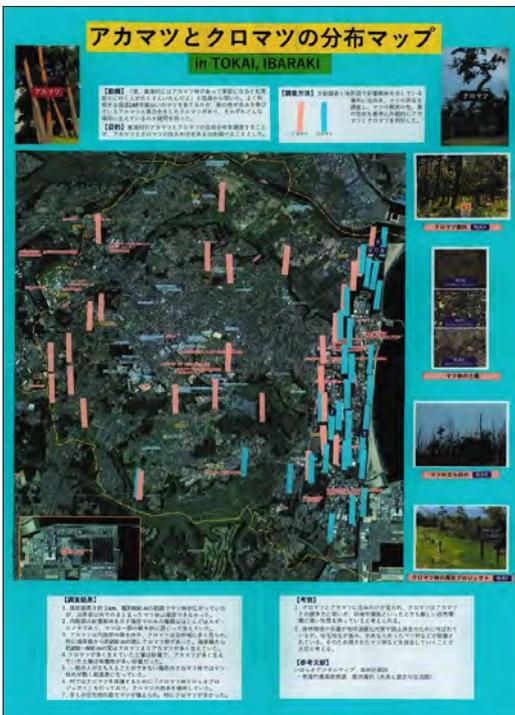


**北茨城市の人口推移 MAP
~僕達の町の未来を考えよう~**

茨城県立日立第一高等学校
附属中学校
1年 高倉一馬

(作成者による紹介)

僕の家は北茨城市で金属の加工を行う会社を営んでおり、僕は将来この会社の四代目として跡を継ぎたいと思っています。そこで北茨城市の人口推移に着目し町別に調べてみましたが、このまま減少傾向が続くことに物凄い危機感と不安を感じました。北茨城市の未来は今の時代が作ると思います。今回町並みを探検し魅力を再発見することで、人口減少対策の意識が高まりました。将来は仲間と共に北茨城市を盛り上げ発展させていきたいです。



(講評)

祖母との会話をきっかけにマツ林に興味をもち、文献や地図の調査をふまえ、現地でも丹念に調査をしています。アカマツはピンク、クロマツは青で示すことによって、沿岸域と内陸部における分布の違いが一目でわかります。現地調査をもとに、クロマツが海岸線から200mの砂質の土壤に分布していることなど、アカマツの分布との違いを明らかにしています。また、人の出入りが出来ない場所のクロマツが立ち枯れていることに気づくなど、マツの生育状況から植栽や保護との関係にも触られています。



アカマツとクロマツの分布マップ

江戸川学園取手中学校
1年 黒澤美樹

(作成者による紹介)

「昔はアカマツ林があって松茸を取りに行く人がいた。」と祖母から聞きました。国道245号線沿いのマツ林を観察したところ、クロマツとアカマツがそれぞれ多い場所があることに気づきました。そこでアカマツとクロマツにすみ分けがあるのか知りたいと思い、自然分布を調べ、この地図を作成しました。マツ林が少なくなっており、地球温暖化防止のためにも森林環境の保護が大切であることをみんなに知ってもらいたいと思いました。



空き家探検隊！ ～筑西市の空き家 トラブルを減らせ～

茗溪学園中学校
2年 海老澤 杏音

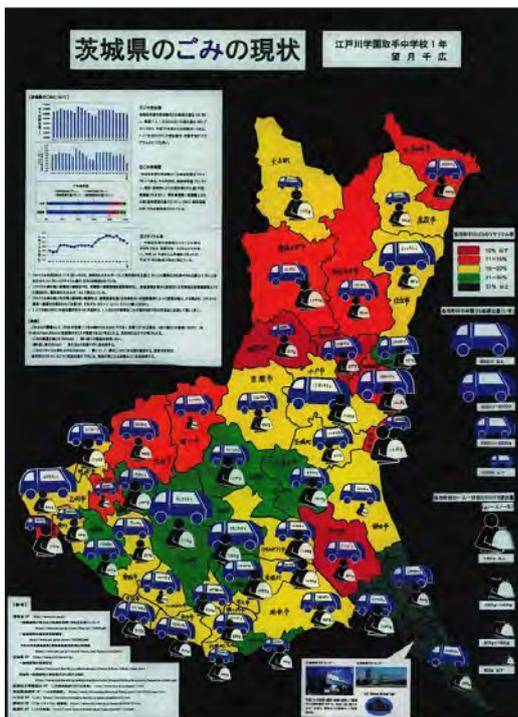
(作成者による紹介)

空き家は近年、倒壊の危険性があったり、害虫や害獣が住みついて近隣住民の迷惑になったり、トラブルの原因になっています。そこで、私が住んでいる筑西市には空き家がどれくらいあるのか、市はどのような対策をしているのかを調べました。市では、空き家バンクを始めとする様々な対策を行っていて、私たちの生活をサポートしてくれていました。空き家で困っているたくさんの人に、このことを知ってもらいたいです。

(講評)

自宅近くにある空き家に目を留め、そこから市の空き家問題に関心を寄せ、調査したことを地図にまとめています。市のHPで調べた上で、市の担当者にインタビューを行い、空き家が増えてきた理由を考察するとともに、行政の対応とそれに対する作者の考えがしっかりと書かれている点が評価できます。

コロナ禍が収束したら、実際に自宅周辺などでフィールドワークを行って調査したいですね。この調査をきっかけに、今後様々な社会問題に目を向けてもらえることを期待します。



茨城県のごみの現状

江戸川学園取手中学校
1年 望月 千広

(作成者による紹介)

今、地球では様々な環境問題が発生しています。私は、SDGsの目標11(住み続けられるまちづくりを)、目標12(つくる責任、つかう責任)の達成に向けて、3Rを実践することが重要であると考えます。そこで、現在の茨城県のごみ処理の現状を、市町村ごとに一つの地図に表しました。私たちにとって最も身近とも言えるごみ処理の問題について、この地図を通して考えてみてほしいと思います。

(講評)

県内のゴミについて市町村別に、年間ゴミ総排出量、一人当たりゴミ排出量、リサイクル率に着目し、それらの関係性がとらえやすい主題図に仕上げています。ゴミ収集車やゴミ袋を抱えた人物の大きさで量を表したりリサイクル率で市町村を色分けしたり、表現を工夫して誰もが注目する地図作品になっています。地図からリサイクル率とゴミ排出量との関係、自治体による差異について考察し、今後の課題を明らかにして解決の糸口を地域に即して探ることができそうですね。



佳作

どこが安全？バス停調査 MAP
茨城大学教育学部附属小学校 3年 中澤 理久
(講評)

通学にはバスを利用する作者は、水戸で利用者が多いバス区間の停留所周辺にある110番の家などの子どもが避難したり助けを求めたりできる場所を調べて地図に表し、停留所の安全度をランキングしました。警察署や市役所での聞き取りで疑問を解決し、丁寧な調査によって、大通りは比較的安全である反面、路地に入ると人通りも逃げ込む場所も少ないことを見出しています。学校の仲間にも伝えたい発見です。



佳作

水戸の水 今と昔 ー今私達にできる事ー
茨城大学教育学部附属小学校 4年 鈴木 めい、
中島 千智、中村 彩、古川 陽菜
(講評)

水戸の地図に、旧城下町の堀や湖などを表した透明なシートを重ねています。駅南地区も湖だったこと、旧城内にある作者らの学校周辺に歴史的な施設が多数分布すること、一帯が川や堀に囲まれていたことが地図から読み取れます。さらに、水の都とも言われる歴史ある水戸の町を守るために、自分たちができることをしっかり考えている点もすばらしいです。



佳作

僕の近所の今昔物語
日立市立台原中学校 1年 長山 幸聖
(講評)

30年以上前の地元の地図を見つけたことを機に、現在の様子を自ら調べ、両者の比較ができるように表現を統一した2枚の地図に仕上げています。畑が住宅地や駐車場に変わり、国道沿いの個人商店が減る一方で、新しい道が作られて大規模店が開店するなど、変容を的確に読み取り考察しています。以前から住む地元の人たちはこの変化をどのように受けとめているのか知りたくなりました。



佳作

千波の標高調べ
水戸市立千波中学校 2年 平田 桃子
(講評)

坂の上下や各所の標高を地理院地図で調べて、実際に現地に向向いて様子を調べています。一口に坂といっても様々であり、数値で確認することによって比較もできますね。地図をみて、舟付という地名、学校のそばにある古墳など、なぜここにあるのかということも気になりました。この一帯の水や地形、歴史とも関係がありそうです。



佳作

つくば市での高校の数の現状
 茗溪学園中学校 2年 望月 理世
 (講評)

地理的位置や歴史が異なるつくば市と水戸市の学校数を比較し、人口増加が続くつくば市で近い将来高等学校の不足問題が生じることを指摘しています。人口と学校が偏在するつくば市の状況をわかりやすく示した地図や丁寧な考察は、高校問題ばかりでなく、市が抱える様々な問題を示唆しているようです。



佳作

日立に眠る5億年の歴史
 茨城県立日立第一高等学校附属中学校
 1年 関乙夏
 (講評)

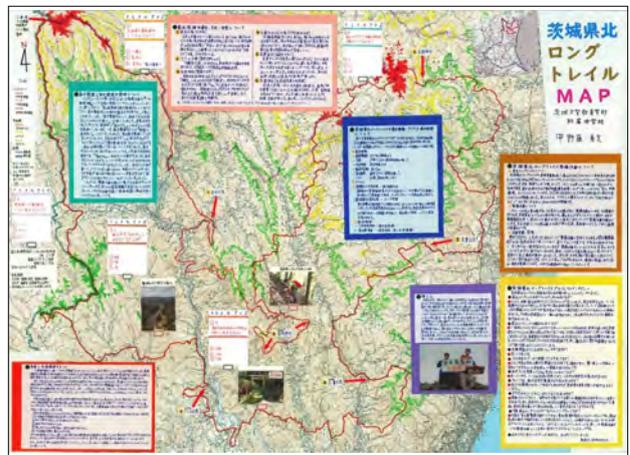
日立に日本最古の地層があることを知り、それがどのようなものか、なぜ自分の住む町にしかみられないのか、実際に地層がみられる現地を訪れて調査しています。地図や写真、説明文を組み合わせ、最古の地層の謎がわかりやすく示されています。公園などに見られる露頭や当時の岩が使われた石碑に地球の壮大な歴史をかき見ることができた作者の感動が伝わってきます。



佳作

守谷市付近の工場分布と道路の関係
 茗溪学園中学校 2年 藤田 結子
 (講評)

丹念な読図などによって工場や物流会社の位置を特定し、表現を工夫して地図化しています。工場や物流会社が主要道路や高速道路インターチェンジ付近に集中していること、また工業地区と住宅地区の違いも可視化されました。さらに、工場立地の時期の違いをみていくと、高速道路の開通や宅地開発、その他の土地利用の変化との関わりもみえてきそうです。



佳作

茨城県北ロングトレイルMAP
 茨城大学教育学部附属中学校 3年 甲野藤 秀文
 (講評)

県北の自然や里山を一つなぎにした300キロを超えるロングトレイルプロジェクト。その全ルートをつないで地形図に示すとともに、県北の環境や文化、ロングトレイル活動について一枚で理解出来る地図作品に仕上げています。整備活動への継続的な参加や関係者との交流やインタビューをふまえての県北地域の未来についての考察と提言は、説得力があります。



佳作

環境モデル都市つくば ~低炭素社会への挑戦~
 茗溪学園中学校 2年 石原 万優子
 (講評)

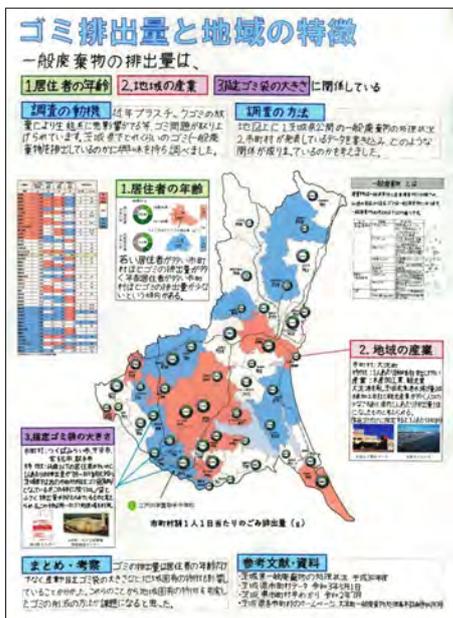
低炭素まちづくりの実現を目指して、つくば市内の様々な低炭素対策に関わる施設や土地利用を市の地図に表すとともに、各取り組みについて文章や写真で説明しています。市の担当者への聞き取りなども行い、自然と科学との共存が低炭素まちづくりの中核にあることを指摘しています。都市部をとりまく周辺地域の豊かな自然や田畑の役割も忘れてはなりません。



佳作

つくば遊歩道周辺の苔マップ
 江戸川学園取手中学校 1年 岡嶋 遼真
 (講評)

遊歩道を歩いていても見逃してしまいそうな苔に注目した作者の独創的な着眼点がまず素晴らしいですね。丁寧に観察して9種類の苔藻を発見し、それぞれの特色や生育場所の違いを明らかにするとともに、その分布を地図にわかりやすく示しています。同じスケールの航空写真と現地撮影した写真も添えられているので、地図作品一枚が遊歩道苔ガイドブックになりますね。



佳作

ゴミの排出量と地域の特徴
 江戸川学園取手中学校 1年 豊田 陽大
 (講評)

市町村別に一般廃棄物の排出量と居住者の年齢、地域の産業、ゴミ袋の大きさとの関係を調査し、工夫してわかりやすい地図に表現しています。64歳以下の居住者が多い自治体では一人当たりのゴミ排出量が多い傾向にあるなかで、排出量を低く抑えているつくばみらい市など県南4市の共通点として指定ゴミ袋が30Lと小さいことを見いだしていることは大きな成果で、ゴミ削減のヒントになりそうです。



佳作

つくば市周辺の地形と農業の移り変わり
 江戸川学園取手中学校 1年 金子 未来
 (講評)

つくば市の台地を刻む谷津田における農業の変化をもたらした各時期の事業を丹念な調査によって明らかにし、それらの壮大な用水事業の全容を一枚でわかりやすく表した見事な地図作品です。谷津田での伝統的な農業様式が、用水路、人工河川などの整備によって乾田で大きく変わったことなど、長年にわたって人々の努力と高い技術が農業における水と地形の制約を克服してきたことが可視化されています。



佳作

茨城県鉱物資源マップ 茨城県立古河中等教育学校 1年 島本 奏汰 (講評)

茨城県で産出される鉱物や鉱山、採石場の分布を地図に表し、その種類や特徴を写真や表で示した地図作品です。阿武隈高地や八溝山地を中心に多種の鉱物が産出されてきたのですね。江戸時代まで遡るものや昭和まで採掘されていたものなど、かつては地域を支える産業として大きな役割を果たしてきたものもあるでしょう。鉱山や炭鉱、採石場と地域との関わりについても知りたくなりました。

作品に描かれた地域は、自宅周辺の身近な地域から市町村規模、茨城県全域までさまざまでした。河川や道路、海岸に沿った地域を対象としたものもありました。

右の図に入選47作品で描かれた各地域のおおよその範囲を表しました。太線で囲まれた地域は、複数の作品で取り上げられた地域を示しています。



入選作品に描かれた地域

展示作品

入賞作品以外に作品展に展示された入選作品 27 点を紹介します。

それぞれの作品では、身のまわりの環境や地域の姿、伝統文化、地域経済、防災など、様々な視点から事物、課題に着目して、観察、調査を行い、それらの結果を地図上に表現しながら、きれいに作品にまとめあげています。

展示作品のリストは国土地理院関東地方測量部ホームページに公開されています。

<https://www.gsi.go.jp/kanto/ibaten.html>



茨城納豆ねばーるマップ
小学校 6 年生の作品



茨城県マンホールマップ
～パート 4 絵から見えるマンホール編～
小学校 5 年生の作品



われら右もみたんていだん
小学校 2 年生の作品



私のまちの救命救急
小学校 6 年生の作品



取手市の利根川洪水ハザードマップ
中学校 1 年生の作品



平成から令和へ 茨城県・市町村の変化
中学校 1 年生の作品



ご利益マップ～神社パワーを借りよう～
中学校 2 年生の作品



我が町の魅力再発見～我が町の地域探索～
中学校 3 年生の作品



鬼怒川堤防の今を知る
中学校 2 年生の作品



川で深める災害の今昔
中学校 1 年生の作品



茨城県の工業団地
中学校 1 年生の作品



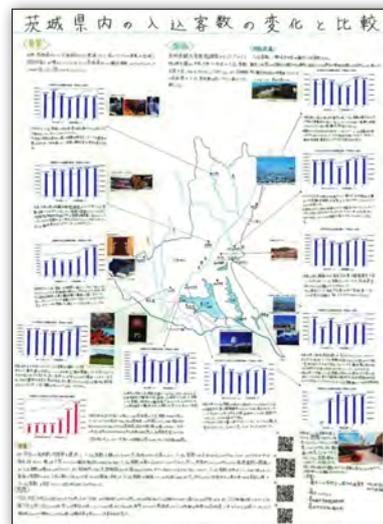
茨城県の医療に関する特徴と課題について
中学校 1 年生の作品



備えておこう！千波地区の冠水予報マップ
中学校 1 年生グループの作品



牛久市ひたち野うしく発展マップ
中学校 1 年生の作品



茨城県内の入込客数の変化と比較
中学校 1 年生の作品



茨城の海マイクロプラスチック調査 Map
中学校 1 年生の作品



取手市の文化財・歴史遺産
中学校 1 年生の作品



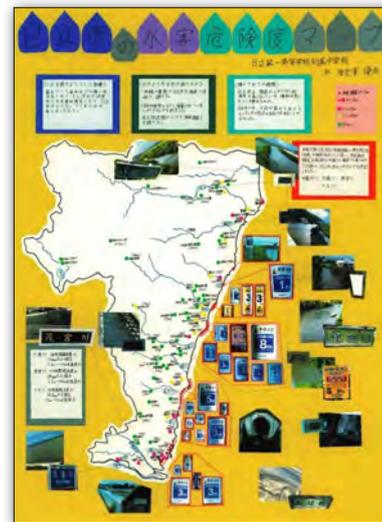
僕達の学校周辺の治安
 義務教育学校7年生グループの作品



身近に眠る我が町の歴史
 中学校1年生の作品



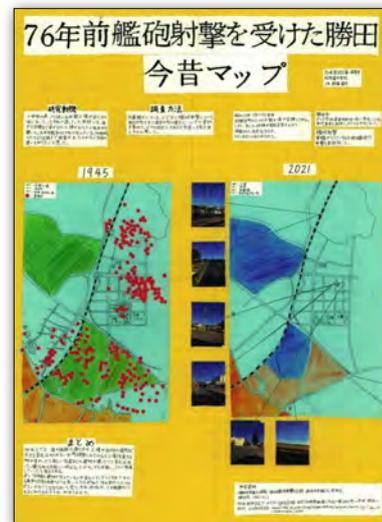
日立のさくらMAP
 中学校1年生の作品



日立市の水害危険度マップ
 中学校1年生の作品



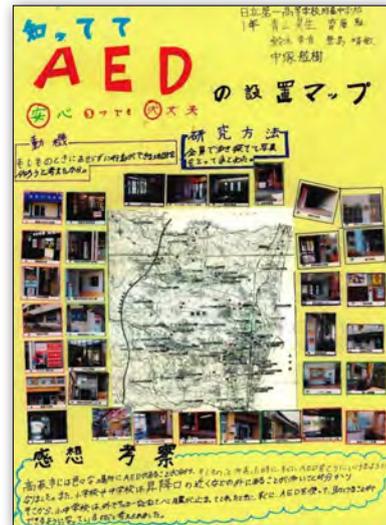
川尻町・折笠町信号機マップ
 中学校1年生の作品



76年前艦砲射撃を受けた勝田今昔マップ
 中学校1年生の作品



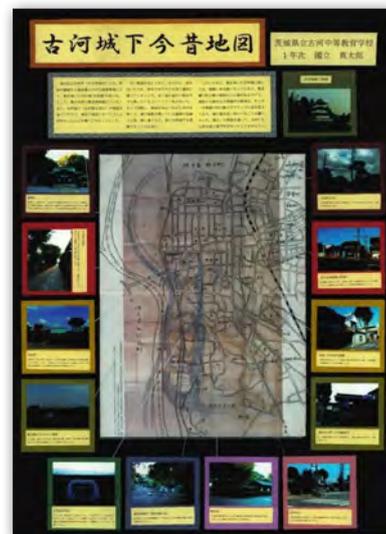
東海十二景めぐり
中学校1年生の作品



知ってAEDの設置マップ
中学校1年生グループの作品



交通事故MAP
中学校1年生グループの作品



古河城下今昔地図
中等教育学校1年生の作品

今年度は、新型コロナウイルス感染症の状況下、野外調査や対面での調査は様々な制約をとまなうこととなりました。中学生を中心に、多種の地図や統計データを比較したり関連付けたりしてして地図作品に仕上げた作品が多数寄せられました。課題意識をもって取り組み、データや文献を駆使して分析や考察に時間をかけた作品は、高い発信力を持ちます。作品展では、そうした作品をじっくり見入る人が多くみられました。

感染対策を取りながら、身近な地域を対象に個人やグループで野外調査を行ったり、保護者の方の協力を得て遠方まで出向いて調査したりして、フィールドワークの成果をまとめた力作も集まりました。実際に見聞きして考察したことをまとめ、地域の様子が目に浮かぶ臨場感のある作品は、作成者の強い思いが直に感じられ、来場者の注目が集まりました。

紙上作品展はいかがでしたでしょうか。細かい地図表現や考察の文言、実物の紙の質感などはわかりにくいと思いますが、作品作成にかけた児童生徒の熱意だけでも感じてもらえたら幸いです。

地図作品づくりで深まる主体的・対話的な学び

地図作品づくりと学習との関わり

地図作品づくりの手引き

地理院地図の活用

教育現場に役立つ「地理教育の工具箱」

災害リスクを調べる「ハザードマップポータルサイト」の活用

地図作品づくりと学習との関わり

地図作品づくりは、教科・領域横断的な学習、遠足や宿泊行事、家庭や地域との連携による諸活動など、学校における様々な教育活動に組み込むことができます。ここではまず、教科の学習との関わりについてみていきましょう。

◎教科の学習との関わり

地域の様子や事物、課題などに着目し、観察したり調べたりする活動や、活動の成果を地図にまとめたり、地図を活用して発表したりすることは、教科を問わず様々な学習において行われています。

小学校ではまず、生活科の「まちたんけん」があります。学校周辺の探検で見つけたものを皆で絵地図に表す活動に、児童は生き生きと楽しそうに取り組めます。この野外での体験と教室での表現活動を通して、現実世界と地図という抽象世界とを行き来し、体感的に地域の広がりや地図の意味を理解します。地図作品展には、生活科の授業で作成した地図や、授業での体験を踏まえ、夏休みに近所を保護者の方とめぐって作成した絵地図などが寄せられます。

地図の活用が本格的に始まるのが第3学年の社会科です。冒頭の単元「身近な地域や市町村の様子」で大切なことは、自由に地図を描くそれまでの表現に新たな技能を加えていきながら、地図で調べたり白地図にまとめたりする活動を重ねていくことです。第4学年以降、都道府県、国土、世界へと学習範囲が拡大していく中で、次第に「地図を読む」、「地図で調べる」、「地図で考える」といった学習活動が増えていきます。そこで培われた思考力・判断力が「地図に表現する」活動にも加わり、高学年まで地図作品づくりを通したより深い学びが期待できます。道路標識や自動販売機、マンホールなどの所在を地図にしたもの、地域の様子を調べて古い地図や写真と比較したもの、小学生による作品はじつに様々です。高学年になると、文献資料にあたりたり詳しい人に聞き取りをしたりと、幾つかの調査方法を組み合わせたものが増えます。

中学校の社会科では、新設された単元「地域調査の手法」において、学校周辺の直接経験地域の観察や調査を指導計画に位置づけ、「地図の読図、目的や用途に適した地図の作成」などを身に付けることが重視されるようになりました。この学習は「地域の在り方」、「身近な地域の歴史」などの単元や、公民的分野における身近で具体的な事例を取り上げて行う学習でも生かされます。地図作品展の応募作品では、少子高齢化や人口減少、地域医療、

交通、防犯などの社会的課題を題材としたものが多くみられます。これらは学校での授業が調べる動機になっていると思われます。

理科の学習ともつながりがあります。小学校、中学校での「生物と環境」、「自然の恵みと災害」などの学習では、地域の環境を生かして自然の事物の分布や現象の地域での現れ方に着目して野外観察を行い、成果を地図にまとめるなどの学習活動が行われています。近年、地図作品展では、環境や防災をテーマにした作品が増えています。地域の草木や野鳥、水辺の生き物などを、夏休みに時間をかけて観察した力作が寄せられます。また、大雨による浸水や河川の氾濫など、実際の被害を取り上げたものもあれば、防災の観点から冠水のリスクについて調査したものもあります。こうした観察・調査活動を通して、理科の学習内容と自分の生活とのつながりを実感することができます。

地図作品づくりにグループで取り組めば、作り手同士の対話が生まれます。完成した地図作品は、作り手と読み手との対話を成立しやすくします。加えて読み手同士の対話も可能となります。読み手の知識や想像力等の違いによって多様な解釈が成り立つことから、対話による深い学びが期待できます。

地図作品づくりは、児童生徒が様々な学習場面で継続的に取り組むことによって、段階的に技能を高め、思考を深めることができる活動です。じっくり時間をかけて取り組める夏休みの課題などに適していますが、一連の活動を部分的にふだんの授業に適切に取り入れることによって、授業が主体的・対話的で深い学びの場になり得る学習活動です。

◎地図作品はりっぱな学習教材になる

以前、小学生による次のような地図作品がありました。

気になっていた「電線のない鉄塔」が火災を知らせる「火の見やぐら」であることを知って、夏休みにその分布を調べ、市の地図に表しました。市のホームページで消防団の場所を調べ、保護者に協力してもらって市内を車でまわり、火の見やぐらを探しました。すると、半鐘の有無や形状など様々で、市の北部と南部とでは分布に違いがあることに気づきました。

地図に仕上げてみると、山に近い古い集落には比較的残っているのですが、新たに住宅開発されたところではなく、都市化が進みつつある地域では撤去が進んでいることが明らかになりました。地図作品が、市の開発の様子が読み取れるりっぱな教材資料になりました。(第19回作品展「つくばの火の見やぐら」。<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/SAKUHIN/22sakuhinten-ibaraki.html>)

地図作品づくりは、作り手の探究的な学習の過程での学びとともに、できあがった地図作品が新たな学びの教材となることも大きな特長といえます。

◎総合的な学習の時間との関わり

総合的な学習の時間の目標の一つ「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする」というのは、地図作品づくりの活動にも通じるところがあります。環境や福祉などの現代的な課題や地域や学校の特色に応じた課題、具体的には、町づくり、伝統文化、地域経済、防災など、地域や学校の固有な諸課題など、解説に例示された探究課題は、地図作品展のテーマにも多数みられます。調べたことを地図にまとめる活動は、他者と協働して取り組むという点も、総合的な学習の時間に適した活動といえます。

総合的な学習の時間の『解説』において、指導計画作成上の配慮事項についての記述の中に「特色ある教育活動の創造に繋げていくためにも、地域の実態把握が欠かせない。教師自ら地域を探索したりフィールド調査をしたり、実際に見たり聞いたりして、地域と関わることが望まれる」とあります。まずは、先生方自ら、地図を手に、できればマイカーではなく、児童生徒と同じように徒歩で地域をまわってみませんか。きっと新たな出会いや発見があるはずです。

◎探究活動における「整理・分析」「まとめ・表現」

分析したことを文章やレポートにまとめ、自分の考えとして整理する活動は、文字言語を主とする「主体的な学び」につながります。この自己内対話を他者との「対話的な学び」につなげるには、探究過程の「まとめ・表現」において「学習の成果を共有する場面」を位置付けることが重要です。

近年、プレゼンテーションソフトを用いた発表が小中学校でもさかんです。一方で、従来型ともいえる模造紙大のポスターや壁新聞などによる表現活動も根強く支持されるのは、これらの表現形式ならではの教育的効果があるからでしょう。大勢の前で行うのに適しているプレゼンテーションソフトに対して特定の相手に行うポスターセッションは、対話による成果の実質的共有が成り立ちやすい利点があります。加えて、こうした掲示物の大きな特徴は、発表者がいなくても作品自体が発信力をもち、作品を媒介とした作り手と読み手との対話、さらには、読み手同士の対話の場が形成されることです。もちろん掲示すればよいというものではありませんが、ポスターや壁新聞などの作品は一枚で、対話による読み手側の学びの場が設定できるのが強みです。

地図作品は、大括りすれば、そうしたポスターや新聞に類するまとめ・表現方法です。それらやプレゼンテーションソフトなどを利用した発表においても、有用な表現方法として地図を取り入れことができます。

地図作品づくりの手引き

ここでは、地図作品づくりの参考になることをまとめています。児童生徒の発達段階に応じて、ご指導・ご支援の参考にいただければ幸いです。

学校での学習であれば、調査のテーマや地域が先に決められている場合もありますが、地図に表現することができる事物(モノ)や現象(コト)であれば、テーマも地域も無限です。テーマによっては、日本全図や世界地図になる場合もあれば、校内などの狭い範囲を対象としたものであっても地図作品になります。

まずは、身近な地域から市町村、県規模を対象として地図作品づくりに取り組む場合の、テーマを考えるとところから始めてみましょう。

◎はじめに

身近な地域について改めて見つめ直してみましょう。それには、実際に歩いて観察してみるのが一番です。どんな特色がありますか。日頃から気になっていることはありませんか。社会に見られる課題は、自分の地域ではどうでしょう。

身近な地域の地図をじっくりながめてみるのもよいでしょう。家にある地域の地図やインターネットの地図(ウェブ地図)で十分です。ウェブ地図は縮尺を自由に変えることができるので、地域の大まかな様子をつかんだり、他の地域と比べたりすることもできます。国土地理院が提供する地理院地図(後述「地理院地図の活用」参照)もインターネットを通して簡単に入手することができます。

地域を歩いて観察したり地図をよくみたりして、疑問や興味がわいたことがあれば、それがテーマにつながります。おおよそのテーマを決めて下調べをしていくなかで、追究する具体的なテーマと調べる地域の範囲をしばっていく方法もあります。

◎調べる視点と手順

テーマや対象とする地域の範囲によって、具体的な視点や手順は異なる場合がありますが、基本として次のようなことがあげられます。

- ・地域や場所によって違いがみられるようなモノの分布やコトの広がりに着目します。
- ・どのように違うのかを明らかにします。
- ・地域や場所によってなぜ違いがみられるかを考察していきます。
- ・観察結果や複数の資料を用いて、他のモノの分布やコトの広がりと比較したり、地形や交通などと関連付けたりして、違いの要因や背景を分析していきます。
- ・調べて明らかにしたことを地図に表現し、地図作品に仕上げます。

○身近な地域を対象とした調査

住まいの周辺や通学路、学区などの身近な地域は、実際に出かけて観察したり調べたりすることができるのが強みです。観察調査ではわからないことは、地域の人に聞き取りをしたり、地図や本などで調べたりします。昔の様子は、古い地形図や空中写真で調べることもできます。

○市町村や県を対象とした調査

身近な地域では○○だけど、他の地域ではどうなのだろう。そんな疑問が浮かんだときは、対象地域を広げてテーマを設定するのも一つの方法です。

直接出かけて調べることができない場所を含む、市町村や県などの広い地域を範囲とする場合、モノの分布やコトの広がりにかたよりのある事象に注目するとよいでしょう。

特定の事象の分布や広がりを表した主題図を読み取ったり、モノの所在地や数値データを自分で地図化したりして、市町村や地区による差異を比較・関連付けて考察していくことが考えられます。

自治体でまとめた統計や地図、図書館の本、インターネットの情報など様々な資料を活用して必要な情報を集めます。実際に行って調査できる場所があれば、一部でも実地調査を取り入れると、考察の説得力が増すでしょう。

○調査用の地図、まとめの地図について

テーマや目的をもって表現された地図を主題図といいます。地図作品も主題図です。主題図を作成する際、調べたことを書き込む土台の地図をベースマップといいます。学区地図や自治体の地図、住宅地図などをもとにベースマップを作成することもできますが、国土地理院の地理院地図※は入手しやすく加工もしやすいのでお勧めです。野外調査の際の地図、まとめ・整理する地図など、目的に応じて必要な要素を選んでオリジナルのベースマップを作成することができます。後述の「地理院地図の活用」で紹介していますので、詳しくはそちらを参照してください

地図作品にまとめる際のベースマップに基本情報として何を書き込むかはとても重要です。多すぎても肝心の伝えたいことがわかりにくくなります。一般に、学区や市町村の形(範囲)を示すだけでなく、川や主な道路は基本情報として入れるとよいでしょう。そのほか主要施設など地域の基本情報を入れたり、道路に色を塗ってはっきり分かるようにしたり、高低差など土地の様子を薄く色分けして表したりすると、読み手に伝わりやすくわかりやすい地図になります。

◎調べたことを地図作品に仕上げる

新聞づくりやポスターづくりと基本は同じです。大きく表して壁などに貼ることによ

て、多くの人に成果を伝えることができ、複数の人が一緒にみることもできるという特長があります。地図を中心にして、みやすさ、わかりやすさを意識してつくるのが大切です。

ICTの発達によって、児童生徒が直接ウェブ地図を使って、パソコン上で時間をかけずにオリジナルの地図作品を作成することも可能になりました。その一方で、手書きの地図にはその作成過程での思考・判断・表現に多くの学びがある点で、小中学生にはとくに適しています。両者のよさを生かして地図作品づくりに取り組むことで、大きな学習効果が期待できます。

ここでは、ベースマップはウェブ地図を活用するとしても、地図作品としては模造紙などに表現することを前提として述べていきます。

○地図づくりの基本的なルール、入れるべき基本的な要素

方位：地図には方位のしるしを入れます。地図は通常、北を上にはしますが、スペースの都合などから北を上にはしない場合は、必ず入れるようにしましょう。

縮尺：実際の距離がわかるスケールバー（地図のものさし・目盛り）を入れます。既製の地図（市町村図、都市計画図、地形図など）をコピーしてベースマップをつくる場合、地図の端にあるスケールバーもコピーすることを忘れないようにしましょう。

凡例：記号を使ったり色分けをしたりする場合、凡例をつけましょう。

出典：主要参考文献や利用した地図の出所は必ず付記しましょう。

○地図作品に仕上げる

地図作品に入れる内容とその表現方法を決めます。調べたことを全て表すのではなく、伝えたいことは何かをよく考え、書き入れることを精選します。見やすくわかりやすい地図、簡潔な文章がポイントです。

○文章で入れること

動機（なぜ調べようとしたのか、調べようとしたきっかけ）

目的（何を調べ、何を明らかにしようとしたのか）

方法（どのように調べたのか、どのような資料を使ったのか）

結果と考察（どんなことがわかったか、どのようなことを考えたか）

まとめと感想（一番伝えたいこと、これから取り組みたいこと）

など、わかりやすく簡潔な文章で表しましょう。

○わかりやすく見やすい作品をつくる工夫

- ・地図を中央に大きめに表し、文章やグラフ、図表は周りに配しましょう。
- ・周りに配した写真やイラスト、説明などは、吹き出しや線を使ったり番号をつけたりして、

地図上の場所を示すこともできます。

- 地図に示したい事柄が一カ所に集中するようなときは、その範囲を拡大して別に示すこともできます。
- 身近な地域の地図作品では、自分で描いたスケッチや撮影した写真なども活用できます。
- 分布を示すには、記号を使ったりシールを貼ったり、文章は色カードに書いて貼ったするとわかりやすくなります。
- 市町村の統計データを使って地図に表す（統計地図）際は、実数、割合、どちらの数値で表すのが適切か、注意が必要です。実数なら○の大きさなどで、割合であれば、市町村を色分けするなど適切な表現のしかたを選びましょう。
- 用紙の模造紙の色は自由です。色模造紙を使って、地図や考察などを記したシートを貼るなど、見やすい工夫をしましょう。別紙やシールは剥がれないようにしっかり貼りましょう。
- タイトルの文字のデザインを工夫したり、絵地図のようにイラストを入れたり、図画工作や美術で学んだことも生かすと、個性豊かな作品になるでしょう。

地図作品づくりに決まりがあるわけではありません。

地図のごく基本的なルールを押さえたうえで、ルールに縛られすぎず、作り手が工夫してオリジナルの地図をつくること、何より、自由に楽しく取り組むことを大事にしてほしいと思います。



地理院地図の活用

学校の周辺を観察・調査したいけれど、適当な地図がない、という声をよく聞きます。地理院地図を使えば、手軽に自分で作成することができます。

国土地理院は、地形図、空中写真、災害情報などさまざまな地理空間情報を提供しています。たとえば、土地の起伏や成り立ちを表現した地図や、過去から現在までの空中写真、自然災害に関する地図・写真などを、国土地理院のサイトからだれでも閲覧することができます。さらに、地理院地図（電子国土 Web）では、利用者自身がそれらの情報を重ね合わせたり、取捨選択して目的に応じた地図を作成したりすることができます。地域学習用に学校周辺の道路だけの地図を作ることもできますし、市区町村名と行政界だけを示した白地図も簡単に表示できます。



国土地理院のウェブサイトを開いて (<https://www.gsi.go.jp/top.html>) 「地理院ホーム>地理院地図ヘルプ>地理院地図の使い方」から「小・中・高等学校教育関係者向け！」をクリックすると、「地理・防災教育での活用方法を紹介します」というページに切替わり、様々な活用方法が紹介されています。そのなかの「学校周辺の地図を作成する」を参考に、試しに学校周辺の地図を作成してみましょう。生活科や社会科での地域調査や総合的な学習、安全や防災に関する活動などでも活用できます。



GIS < 出典 >

国土地理院「地理教育の工具箱」

(<https://maps.gsi.go.jp/help/intro/school/index.html>)

◎学校周辺の地図を作成する

地理院地図のウェブサイトを開いて左上の検索欄に学校の所在地を入力してみると、地域の地図が表示されます。ドラッグ操作で場所の移動ができます。画面左下の拡大縮小バーで適当な大きさにします。バーの下に小さくスケールバーがありますので、これで距離がわかります。画面左上の地図の種類から淡色地図をクリックすれば、グレースケールの地図になります。このまま印刷して学区探検などに活用することもできます。さらに、「地理院地図 Vector」に切り替えれば、目的に応じた地図を作ることができます。

地理院地図 (電子国土 Web) **標準地図がまず表示されます**

住所や施設名を入力

地図の種類

バーを動かして縮尺を変えることができます。実際の距離は下のスケールバーでわかります。

右上の「地理院地図 Vector」をクリックすると、編集可能な地理院地図 Vector に切り替わります。

地理院地図 Vector **白地図を表示します**

地図の種類の中から「白地図」を選択すると白地図に切り替わります。

建物が示されているので、学区調査の観察ルートの計画を立てるときにも便利です。拡大・縮小するなどして、調査の際、児童生徒がもつ地図として使うことができます。

「表示中の地図」の「編集」をクリックして、メニューから地物を取捨選択し、非表示にしたり着色したりすることができます。

地理院地図 Vector では、地図の拡大縮小は＋－で行います。実際の距離は右下のバースケールで示しています。

「建物」を非表示

「建物」を選択してを非表示に。

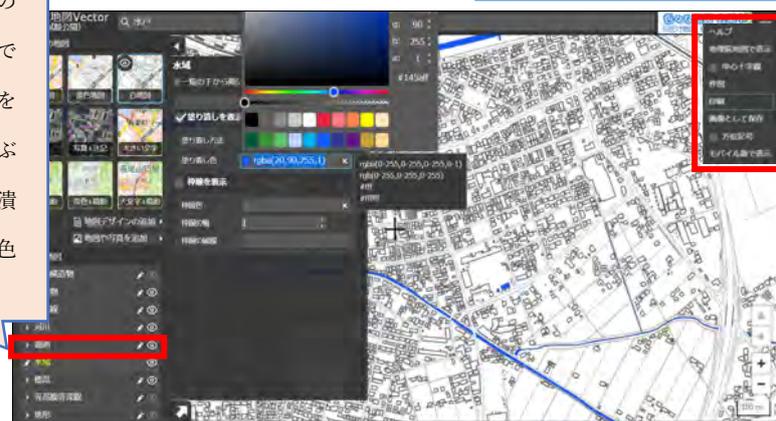


道路や鉄道路線のみ示されるので、野外調査の際、気づいたことなどを書き込みやすくなります。地図作品の下書きにも活用できます。

又は

「水域」を着色

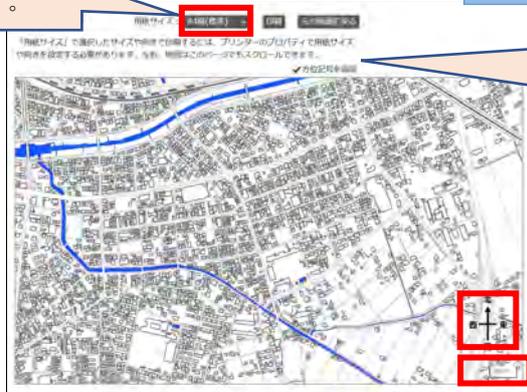
編集に必要な地物のみ着色することができます。「水域」を選択し、「塗りつぶしを表示」で塗り潰し色を選択して青色に着色。



印刷をするときは、右上のメニューから「印刷」をクリックします。

用紙サイズ等を選択します。

印刷するには



「方位記号を追加」をクリックすると、右下、スケールバーの上に印刷されます。

印刷した地図を拡大・縮小して使用するとき、実際の距離がわかるように、スケールバーを入れることを忘れずに。

詳細は国土地理院のウェブサイト (<https://www.gsi.go.jp/top.html>) をご覧ください。



教育現場に役立つ「地理教育の道具箱」

国土地理院では教育現場向けの情報ポータルとして「地理教育の道具箱」を設け、教育現場での国土地理院のコンテンツ活用が進むよう、学習段階に合った情報や活用例を提供しています。

「地理教育の道具箱」には、地理院地図の簡単な使い方を掲載しているほか、国土の情報や地形学習に有用な情報、授業の導入に活用できる情報が掲載されています。国土地理院のコンテンツ及びこれらを用いた教材や具体的な活用例などが、教育現場で使いやすい形で紹介されています。

地理教育の道具箱

地図や地理、防災を学びたい方、教育関係の方々向けに、国土地理院のコンテンツやツールについて紹介するページです。

子どもから大人まで
地図で学ぶ防災ポータル

入口はこちら

教育関係者は是非
地理教育支援コンテンツ

入口はこちら

教科書出版社や学生は是非
説明会やサマースクールのご案内

入口はこちら

目次

地図で学ぶ防災ポータル	地理教育支援コンテンツ	説明会やサマースクールの案内
<ul style="list-style-type: none">・災害から避ける・災害に備える・災害から学ぶ	<ul style="list-style-type: none">・小学校3・4年生・小学校5年生・中学生・高校生・地域の調査や探求・もっど地図を使う	<ul style="list-style-type: none">・教科書・出版社への説明会・学生向けの情報のご案内

一目瞭然！ イラストで学ぶ過去の災害と地形

千鶴子・ハザマ博士の
災害を学ぶ冒険

千鶴子・ハザマ博士と学ぶ
防災地理教育コンテンツ

地理教育の道具箱 (<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/index.html>)



災害リスクを調べる 「ハザードマップポータルサイト」の活用

毎年のように地域に深刻な影響を及ぼす自然災害が発生しており、さらに今後、気候変動により、災害が頻発化・激甚化することが懸念されています。そのため、それぞれの土地の潜在的な災害リスクを知ることでどのような災害リスクが存在するのかをあらかじめ知り、いざという時のために平時から備えておくことが重要となります。

身のまわりの災害リスク情報を簡単に調べることができるサイトとして、「ハザードマップポータルサイト」があります。本サイトは、各市町村が作成したハザードマップのリンク集である「わがまちハザードマップ」と、災害リスク情報を地図に重ねて表示できる「重ねるハザードマップ」の2つのコンテンツから成り立っております。

「重ねるハザードマップ」では、洪水、土砂災害、津波等の災害リスク情報のみならず、航空写真や地形分類等を地図上に自由に重ねて表示することができます。紙のハザードマップではできない市町村の境界を超えた統一的な表現で、情報をシームレスに閲覧することができます。また、リスクをまとめて調べる機能を使用すれば、自宅付近にはどのような災害リスクがあるのかをまとめて調べることができます。



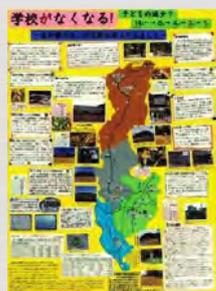
ハザードマップポータルサイト
<https://disaportal.gsi.go.jp/>

重ねるハザードマップ

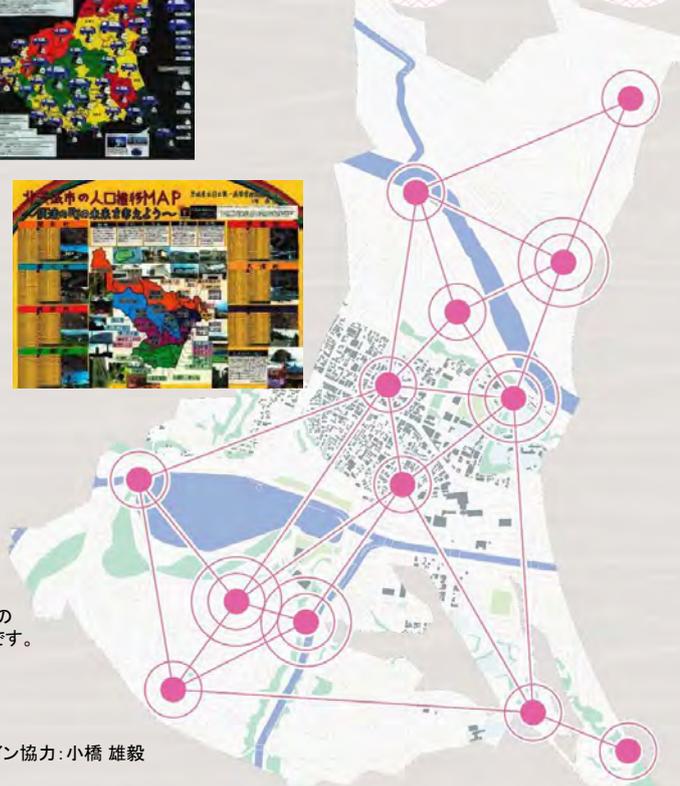
あなたの町や県のすがた、自分で調べて考えたこと

地図で伝えよう

作品 募集



※これらの作品は、第22回の最優秀作品及び優秀作品です。



第23回

デザイン協力: 小橋 雄毅

いばらき児童生徒地図作品展

作品応募
期間

2022年9月1日(木)~9月30日(金) ※必着

【作品展】2022年11月29日(火)~12月11日(日) 茨城大学図書館1階展示室

※いずれも予定

【表彰式】2022年12月3日(土) 茨城大学図書館ライブラリーホール

▼詳しい応募方法は 事務局(国土地理院関東地方測量部)ホームページをご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/kanto/ibaten.html>

アクセス
はこちら



問い合わせ先
いばらき児童生徒地図研究会
事務局(国土地理院関東地方測量部)
TEL:03-5213-2057
茨城大学教育学部社会科教育教室
村山 朝子 TEL:029-228-8223

主催: いばらき児童生徒地図研究会

(茨城大学・筑波大学の学識者、(公社)日本測量協会関東支部、
(公社)茨城県測量・建設コンサルタント協会、国土地理院関東地方測量部 等)

共催: 茨城大学教育学部

後援: 茨城県教育委員会、茨城県教育研究会社会科教育研究部、茨城地理学会、(一財)日本地図センター、
NHK水戸放送局、(株)茨城新聞社 (順不同)

※詳しい応募方法は裏面をご覧ください。

第23回 いばらき児童生徒地図作品展

はじめに

いばらき児童生徒地図研究会では、茨城県の小・中学生が身の周りの環境や地域の姿を自ら観察・調査し、それらを地図に表現することにより、環境や地図さらには地域に対する関心・理解を深めることをねらいとし、県内の児童生徒が作成した地図作品を募集します。

開催概要

以下のとおり、地図作品を募集します。応募された作品の中から審査のうえ入賞・入選作品を決定するとともに、作品展を開催して展示します。また、特に優秀な入賞作品を来年1月開催予定の「第26回全国児童生徒地図優秀作品展(主催:全国児童生徒地図作品展連絡協議会)」に出展します。

◆ 応募要領

- テーマ : 身の周りの環境や地域の姿を調査・観察・考えたことを地図として表現したもの
 - 応募資格 : 茨城県内の小・中学校の児童生徒(グループでの共同作成可)
 - 作品の規格 : ①紙地図 模造紙サイズ79cm×109cm(縦横自由) ②地形模型 縦50cm×横60cm×高さ20cm以内
 - 応募期間 : 2022年9月1日(木)～9月30日(金) (必着)
 - 応募方法
 - ・作品名・学校名・学年・学級・氏名を記入したネーム票(様式1)を作品裏面・底面に貼ってください。
 - ・学校ごとに取りまとめた応募、個人での応募のいずれも可能です。ただし、個人で応募する場合でも、学校に事前報告してください。事務局からも個人応募の状況を学校に連絡するようにします。
 - ・いずれの場合も、応募者リスト(様式2)を作成し、電子メールで下記宛に提出してください。
- なお、詳しくは国土地理院関東地方測量部ホームページを御覧ください。下記のQRコードから入れます。

応募者リスト(様式2)提出先

電子メールの宛先	gsi-k2+eventg@gxb.mlit.go.jp (いばらき児童生徒地図研究会事務局)
電子メールの件名	(〇〇学校)いばらき児童生徒地図作品展応募について

- ・下記のいずれかの方法で、作品とプリントアウトした応募者リスト(様式2)をセットにして提出してください。
 - 【郵送の場合】〒305-0811 つくば市北郷1番 国土地理院総務部広報広聴室(地図と測量の科学館)あて
 - 【持参の場合】①地図と測量の科学館
受付時間、休館日等を予め確認するよう、お願いします。
TEL: 029-864-1872 FAX: 029-864-3729
 - ②(公社)茨城県測量・建設コンサルタント協会(水戸市谷津町1-23水戸西流通センター内)
受付時間、休業日等を予め確認するよう、お願いします。
TEL: 029-254-8200 FAX: 029-254-8180

◆ 審査

- ・いばらき児童生徒地図研究会の審査委員が厳正な審査を行い、最優秀、優秀及び佳作からなる入賞作品並びに展示作品を加えた入選作品を決定します。
- ・入賞結果は、国土地理院関東地方測量部ホームページに公表するとともに、作品を応募した学校にも連絡します。個人応募の場合には、学校への連絡に加えて個人にも連絡するようにします。

◆ 作品展及び表彰式 ※いずれも予定

- ・2022年11月29日(火)～12月11日(日)の期間、茨城大学図書館1階展示室(茨城県水戸市文京2-1-1)において作品展を開催し、50点程の入選作品を展示します。入場料は無料です。
- ・2021年12月3日(土)に、茨城大学図書館ライブラリーホールにおいて表彰式を行いません。

◆ 個人情報の取り扱い

個人情報の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律及び関連法等を遵守の上、個人情報を取り扱います。

◆ 作品の返却

- ・応募された作品は、学校ごとに返却します。作品の返却があった学校におかれましては、お手数をおかけして誠に申し訳ありませんが、作品の作者である児童生徒にお渡し下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ・個人応募の作品も学校経由で返却しますので、あらかじめご了承ください。個人応募の場合も学校にお手数をおかけすることになりますが、重ねてよろしくお願い申し上げます。

◆ その他

- ・応募された作品は、いばらき児童生徒地図研究会の活動のため、活用することがあります。
- ・入選作品の応募者である児童生徒の氏名、学校名等の提供された個人情報は、ホームページ、動画、チラシ、ポスター、記事、広報誌等に掲載し、公表・配布することがあります。
- ・作品の中では、作成した児童生徒等の自宅の場所や位置が特定できるような表現は避けてください。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大等、何らかの事情によっては、作品展及び表彰式は中止となる場合があります。その場合は、国土地理院関東地方測量部ホームページでお知らせします。

国土地理院関東地方測量部のホームページから様式1・2をダウンロードできます。
(<https://www.gsi.go.jp/kanto/ibatn.html>)



令和3年度の入賞作品の動画などを
ご覧いただけます。
(https://www.gsi.go.jp/kanto/ibatn_00005.html)



主要参考文献

環境地図教育研究会（2021）『環境地図づくりを楽しもう！—環境地図展 30 年のあゆみ&環境地図作成マニュアル—』

立命館大学歴史都市防災研究所（2017）『小学生を対象とした「地域の安全安心マップコンテスト」10 年間の歩み』

文部科学省（2018）：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編，東洋館出版社

文部科学省（2018）：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編，東洋館出版社

文部科学省（2018）：中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編，東洋館出版社

長谷川直子監修（2018）『発見しよう！つくってみよう！まちの地図』河出書房

国土地理院（2016）：地理教育の道具箱

<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/index.html> (accessed 27Apr.2022)

本誌に関するお問い合わせは下記へお願いします。

いばらき児童生徒地図研究会

事務局 国土地理院関東地方測量部

TEL. 03 - 5213 - 2057

会長 村山朝子（茨城大学教育学部社会科教育教室）

TEL. 029 - 228 - 8223

E-mail : tomoko.murayama.725@vc.ibaraki.ac.jp

本誌の発行については、日本学術振興会科学研究費基盤研究（C）課題番号 19K02832 によりました。

第 22 回（令和 3 年度）いばらき児童生徒地図作品展の報告 —地図作品づくりで深まる主体的・対話的学び—

発 行 2022 年 6 月

いばらき児童生徒地図研究会

作成・編集

国土交通省国土地理院関東地方測量部

村山朝子（茨城大学教育学部）

印 刷 茨城青写真製本株式会社

Ibaraki

